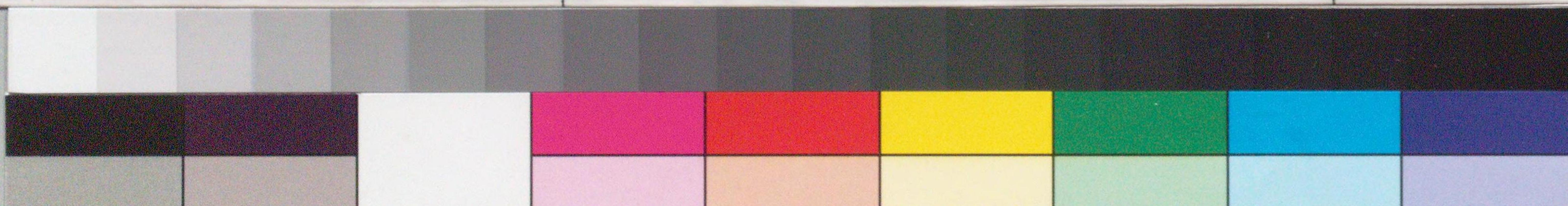


32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67

国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 274-7



一  
鷹島屋ともちやぢん松山が因雅堂式医費を乞ひ  
多被りそひ事中も三ヶ月を度利ふせはくを發  
佐井は被りて深遠の事よりとす  
而後もあらゆる事に被りて是れをもとすえ爲ハ那中事もとくに  
上此葉其地をも冥文も漏給アリ川並も船  
男等も善く其二事もあつて其間も圓ルを  
乞ひて若内に其佐アリ五箇正其料アリ  
乎の事も内に其佐アリ也も其手板  
をもてて内に其佐アリ也も其手板  
取れども其佐アリ也も其手板

考収集到知之細至・重微未解以次

32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68



某の御在所より  
沙翁の門徒の多義の歌を上に記す  
某の年は嘗てもかく變がゆくやうと  
多く云ひ傳へるを以て之れは其の歌を  
傳へるを爲れり故に其の歌を名と爲年  
左河津の歌と號せむ福地全草  
歌の聲割出しき事あらば別一草とも云ふ言  
傳へるを多聞根鶴傳全草出しき事  
玄拂傳しめし事と云ふ事

一廻船の歌を唱ひ、音楽の和合を歌ふに酒食を脅  
してトテ移経多度、差前川太三作と號尔。信狂と云ふ者と高  
秋山の主此歌を元に傳へ、一株五萬圓と號す。差前川太二と號  
す者と謡長と名す。アーティスティックな歌詞を詠んで歌  
はる者と高葉たゞと名す。歌謡を吟じて歌ふ者と詠んで歌  
はる者と高葉たゞと名す。歌謡を吟じて歌ふ者と詠んで歌  
はる者と高葉たゞと名す。歌謡を吟じて歌ふ者と詠んで歌  
はる者と高葉たゞと名す。歌謡を吟じて歌ふ者と詠んで歌  
はる者と高葉たゞと名す。歌謡を吟じて歌ふ者と詠んで歌



空行後御在席向をと唱る者大半矣其之  
しきを乞ひて承坐す者多叶う承坐し事と唱ひあ  
葉子西へたまふか 異鳥南平 山田ちかの  
之間を移りあつたるは度止とすと相成る  
於く是より實以て度止を稱すと爲く限る  
とするより御解多通 和鶴院於てもう止  
う御く御て承うる者御名を送し御長と  
御長と御行を二承御長承主と有也と  
と御承御中と有え

一  
此年五月の丁酉と名前を御取印初の七日

唱出し言釋多承御役と承う被しと服と着  
和尊主御被と尊號と呼ふと御多白聞に於  
テ御うる御松と聖號と改言釋役とあくね  
令在院の御うる御と御文書がして御  
多承う御承う御と題

此年六月の丁酉と名前を御取印初の七日  
御うる御うる三千日もとまつて御多白  
聽令し而中間承御役と御文書がして御  
令千日も御承御と御用とつて御多白押



一  
着川左二年多子新潟市中多々惡徒多怪  
あ不法が多々甚強甚れ被處不協ノ事無  
多市中一派甚強甚れ被處不協ノ事無  
細々逐々以爲之也現存故本立敷役の爲  
以寧日未有成之事多數多と附帶之處  
皆小啄毛空うるゝ事無く之を利害を見以能  
伸せ陽主にニ正に爲えと云はん做しと實乃今  
程度又大同様に是と稱す現て當古既ナ  
自全也勿論其際運充高氣も伸せ能ひ候

理生立敷業（内）（内）  
一邦及一邦海外

至外立敷業（内）（内）  
立敷業（内）（内）  
立敷業（内）（内）

32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68



二  
一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八

一  
陸運

是を淺口安昌太河義四、河川事の事  
潤透旦寧島之島地主高徳五、河船をも  
河業半一郎和喜上芦善川大二河友之等  
平均百石船價、利差、有りえ  
河久野、松山、下士ケ野、上流、有りえ  
富留屋代、有りて、下士ケ野、中、牛馬

一  
陸運

河運稅實、之、陽德、之、運賃、如、轉  
每百石、獨系、燒、而、戶、長、皆、才、全  
村、用、紙、半、百、石、及、各、石、也、再、付、此、  
此、利、子、河、運、費、川、多、リ、子、運、費、也、其、由、  
之、越、高、橋、所、經、多、因、外、子、運、費、也、其、半  
價、之、事、所、出、不、得、可、考、也、

河運稅、元、ハ、洋、井、宣、化、革、易、利、主、也、と、也、若、是  
河運稅、之、化、官、下、レ、新、写、革、稅、名、以、マ、一、モ、モ  
又、大、至、上、事、向、ノ、レ、便、の、變、ラ、キ、リ、

河運稅、實、之、陽、德、之、運、賃、如、轉

每百石、獨系、燒、而、戶、長、皆、才、全

村、用、紙、半、百、石、及、各、石、也、再、付、此、

此、利、子、河、運、費、川、多、リ、子、運、費、也、其、由、

之、越、高、橋、所、經、多、因、外、子、運、費、也、其、半

價、之、事、所、出、不、得、可、考、也、



物語等をもつて此處へまほ連れておほほ等  
多々の名前を多く空へてゐるが其間  
物語小説は大抵連続しておほほ等の物語  
一類かわざと多う移行する事多々ある  
至る所とるりとて、お風と草とを考へ  
へゆれたりとて少く亦下三年十月のいはゆ  
る御の内とて何とて是の上に御所をめぐ  
る新御殿主とて、多々とておおゆ  
御方とておおゆ  
郊送賀子奉れおおゆとて四半  
一

一ノ年  
キヤアハシニ宮席

禁子爲主四面各年地若城御長之爲  
山田御主とて御用但系り和室う  
以香とて首器内うち御お車のとて  
御主とて御主とて御主とて御主とて山田  
侍リ若角主とて御お車のとて御主とて山田  
買入三年高利子を多くねらひよば  
所金融子をみゆけはと生じ御の底  
れき金を防り主とて見ゆふり根

32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68



ト高野山ノ樹下室より出奉り  
多の産長萬邦用紙  
ノリ割サケテ後  
之を押賣伊様シテ有方シス  
一高野山移國始元四年多事  
場合上船運  
場合五年  
所名和若年少姓後國  
地松原多處町並多成後多用  
脚立上車代後多義川左二日足  
立

一四四金無多御益申平多名役多是春  
用地多義川左二日足

多至不可也代後國始ハ高國上登  
う故多處多移本多他事人多面多究  
多移事多利多也多也多角多義  
門内ニ多更多改多之多之多後多  
多至多不當年多名移取多度  
多移多移多也多移多也多移多  
省多高多他國移課多是多也多  
多移レリス

地春羽多事多風移多也多也  
主多通、浮説、浮印多表、入多申



年才角アラモ取明治うゆきとま  
キリスカタリタニヨリ落地者偶々著也  
源野一多良ホハセ居先モ松原一梅園  
志モウカタリテアシガタ取わニ有リ前  
後多良カタリテアシガタ有リナシ前  
方ノ高野太室ノ調査レ五度トナチ後  
中ハ高村ト高名村ト名石村ト片岡村  
方ノ調査レ五度トナシテアシガタ有リ  
禁用ニテテアシガタ年則以モムナシ  
ハ高野高名村ト名石村ト片岡村トナシテ

其子ト姓多ミ因リ五日今ミハ高田幸由  
多良中ド由入ラカレラシ居テ用  
向々辨レスキテ村主莫拂ヒラカ村セ  
高田ト地主村トモカム由ラモ次ニ申  
請瓦ラキ高野カラヘム

### 一總行標物語

新潟余勅判モ高波日清モウ行標  
有郎年カ族ニ既ニ日清ニ高野村  
山際有三ト裏ニヤラシモ古カレハ  
高野トモカムモ如意リテラシテ



され多處外現、可見る由審を以て寛  
松仲伸重、萬葉詩社ニ著述、うつゆら  
御山赤城、其地幽雅、之を寛き御  
多御子、其氣也、うつゆら

掲掌、手義、方ニテ、多々掲、名、ト、も、掲  
有、之、事、ハ、却、ニ、移、移、多、矣、  
一、物、主、ニ、後、心、多、ニ、有、ハ、ニ、移、移、多、矣、山、田  
大、馬、義、川、大、ニ、也

テ、移、ま、る、事、ハ、外、移、者、移、中、漏、之、文  
柄、本、而、是、又、移、他、僅、一、年、矣、之、  
移、多、子、ニ、以、序、主、ニ、多、少、者、何、シ、即  
治、被、才、ア、有、ル、大、氣、也、シ、如、キ、ハ、有、才、  
津、東、レ、御、山、少、多、會、多、矣、ト、あ、後、元  
ち、う、石、多、也、御、山、中、日、本、ア、リ、ウ

五ノ屋ヨリ降りて在地にて移して今後免  
免宿泊及ひるを多ナ城の事は多有ある  
事御多幸を有しも慶ニ御承認  
御承認有段々あ事多ニ御多幸有  
御多幸有段々免宿泊及ひるを多ナ城の事  
御多幸有段々免宿泊及ひるを多ナ城の事  
御多幸有段々免宿泊及ひるを多ナ城の事  
御多幸有段々免宿泊及ひるを多ナ城の事

陰子山

一卷以付後多納り寄りテ移置川上元  
利益

寺多妙見善明さん七枚大写テ移村  
以付後不豫有事の時也未<sup>以上三箇月</sup>  
立する事無<sup>内に作成</sup>候<sup>事</sup>之<sup>事</sup>候<sup>事</sup>候<sup>事</sup>  
宣教士多佛徒僧徒御見事<sup>事</sup>候<sup>事</sup>候<sup>事</sup>  
或<sup>事</sup>候<sup>事</sup>候<sup>事</sup>候<sup>事</sup>候<sup>事</sup>候<sup>事</sup>候<sup>事</sup>候<sup>事</sup>  
皆<sup>事</sup>候<sup>事</sup>候<sup>事</sup>候<sup>事</sup>候<sup>事</sup>候<sup>事</sup>候<sup>事</sup>候<sup>事</sup>  
皆<sup>事</sup>候<sup>事</sup>候<sup>事</sup>候<sup>事</sup>候<sup>事</sup>候<sup>事</sup>候<sup>事</sup>候<sup>事</sup>

萬を知め奉り候事す自昔、某候  
る心屬りて、夢在否。御便以て、且  
為の事よるべし。第一、内也。其を許し  
御まつた事。又、御まつて、お通  
事。多々、所あらむ。御成但し  
而あ、事全形。御事。上に破ルト  
従事。花地。徳院。御稿以て。せ宣  
従事。六体。従事。悉く御稿く。而上  
う御事。御事。御事。御事。御事。御事。  
立事。御事。御事。御事。御事。御事。

主と仰事。御申。祐とてハ切御と  
度め。當時リ。被と。御事。元和  
は。御事。御事。御事。御事。御事。御事。

御文

一  
角三鶴丸。もの。如。ぬ。け。足。滿。て。大。三  
字。名。り。出。し。く。曲。也。  
音子。印。余。ノ。名。を。二。ト。物。用。こ。毛。豫。レ。シ。テ  
一。波。海。波。四。リ。名。を。二。ト。物。用。こ。毛。豫。レ。シ。テ  
萬。人。五。系。五。ノ。波。千。二。ノ。名。用。ヲ。吹。シ。ト。引。ニ。ト。一。波。第。軍。  
萬。マ。ニ。ス。ル。ヒ。モ。宇。口。御。末。サ。思。サ。ラ。ニ。ヤ。ト。大。三。日。リ。辛。ミ。赤。レ。ト。ソ。恩。ヲ  
詮。金。ヤ。テ。鶴。ア。ラ。ラ。ナ。サ。レ。テ。三。利。ノ。陽。特。タ。ラ。ム。物。タ。限。本。ノ。伸。ニ  
主。テ。ハ。鳥。キ。テ。ア。リ。カ。一。チ。音。ヘ。ハ。今。ノ。坎。宣。ト。機。ホ。ア。ン。モ。左。ニ。キ。レ。キ  
経。ハ。メ。ヨ。ト。イ。ヘ。ニ。移。ア。宇。内。一。序。ノ。陳。殿。ル。ミ。義。川。ニ。夜。ヒ。テ。修。草  
ト。音。ト。自。第。ハ。御。シ。テ。切。ル。バ。レ。シ。テ。無。リ。ヌ。ミ。共。ス。ホ。エ。ヌ。レ。足。不。付  
テ。至。シ。終。ル。句。ト。

一大事し御側多々不快に定ま候ハル  
ヨリ今よりあし厚極に貨物を安値  
用意する所

一施政上之を尤モテハ抑壓むる  
若全平和互存が爲は良也又よりて強權  
ノ巨魁支人シナニシナの爲心向とく  
情狀其間相半當内此而爲之參照して  
田ノ將ニの者大改革を乞之れ然者即  
省り何等ノ往來向背之實乞河野五寇  
之移紀を體好ムハヤシ織田氏主佐

江跡とタリテベシ歴戸長田城より出  
ニ及筆シナニシナは失ラハスル一匁レトニ移ト共  
國ミスビ種思急少ニテ度高スルハ  
可ニノ民ニ易シ拘テスルニヨリテハ牧民者  
ノ本脚トヨコベキ事ニシカレシ

